



CONTENTS

Top Opinion

1

2023年度の総会を終えて

未来構想PF 会長 林 康雄

VOICE

2

ワインで街おこし

J R東日本 岩井 有人

たすきリレー

3

海外業務に想う（上）

㈱トーニチコンサルタント 大澤 伸男

国際データ比較

4

P F 書店／私のインフラ巡礼／編集後記

5

Top Opinion

2023年度の総会を終えて

未来構想PF 会長 林 康雄

2023年6月7日（水）、万世橋カンファレンスにおいて2023年度の未来構想PFの総会が開催され、2022年度の事業報告と収支報告、2023年度の事業計画と収支計画の承認が行われ、無事に総会を終了しました。2023年度も関係の皆様のご協力とご支援により、より充実した未来構想PF活動を行っていききたいと思います。

コロナ禍の3年間は様々な制約の中で未来構想PFの活動も思うようにいかないこともありましたが、2021年度には、駅まち未来構想研修「鉄道とまちの将来像～10年後の基盤創造～」を国土交通省、都市再生機構、JR東日本、JRコンサル、鉄建建設から総勢16名のメンバーにより、今後の首都圏の駅の在り様について議論を重ね、15ヶ月に渡り活動を行いました。

2022年度には調査研究ワークショップとして、国土交通省等、地方公共団体、学識経験者、鉄道事業者、コンサル、ゼネコン総勢22名で、現在も進行中ではありますが首都圏の郊外拠点駅（村岡新駅、相模原駅、新木場駅）について将来の在り様を議論しています。

また、2022年度の活動として、現場見学会をJR東日本の品川駅で実施し、開発の進捗状況視察の後、久しぶりに懇親会も行いました。さらには年度末に「津波被災鉄道線区の復旧・復興を振り返る」と題した技術講演会も実施いたしました。

2023年度は調査研究ワークショップの取りまとめを行うほか、次の研修の準備や現場見学会、技術講演会の一層の充実を図り、昨年度以上に活性化をしていきたいと考えています。

ところで、3年にも渡るコロナ禍の中でなにも良いことがなかったのかというと、私個人としては、一つあります。ゴルフ、登山はもちろんですが、平日の懇親会が全く無くなったお陰で、毎日定時に会社を終了して家に帰り、夕食を女房と二人で食べる日々が長く続きました。このようなことは結婚45年になりますが初めての経験でした。自然と女房とも会話するようになり、なんとなく心が通ずるような気がしてきました。夫婦ではありますがゆったりと同じ時間を共に過ごすということが大事なのだと痛感いたしました。

今後、会社においてもリアルなコミュニケーションが復活していきますが、1回1回の機会を大切にしてコミュニケーションの質を向上させていきたいと思っています。常に明るく元気よく「笑顔」で対応していきたいと考えています。



私のインフラ巡礼



～松川地熱発電所～

機械遺産な我が国初の商用地熱発電所

（J R東日本エネルギー開発 大口 豊さん）

未来構想PFのホームページ（HP）をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)



VOICE

ワインで街おこし

J R東日本 岩井 有人

未来構想プラットフォーム通信をご愛読ありがとうございます。編集長を務めさせていただいている岩井です。今回は編集長の特権で？このコーナーを執筆させていただきました（このコーナー、ドイツ関連の話題提供が中心でしたが、今回で4度目の登場になります。最多登場回数更新でしょうか）。今回は「ワインで街おこし」という話題で、去る7月1日にわが故郷・山形県上山市（かみのやまし）で開催された「山形ワインバル2023」を紹介させていただきます。

◆ 本題の前に

お酒にまつわるお祭りと言えば、ドイツ発祥のビール祭り・オクトーバーフェストが有名で、我が国でも10月にこだわらずに各地で開催されています。一方、ワインのまつりを調べたところ、ボジョレーヌーボーの解禁日のお祭り騒ぎとは別に、本場・勝沼をはじめ全国各地で開催されているようです。個人的にはワインまつりの類のものは未知の世界でしたが、今年に入って5月に開催された「八王子ワインまつり」に妻から誘いを受けて参加してきました（そもそも近くに住んでいるにもかかわらず、そのまつりの存在も行くまで知りませんでした）。こういうワイングラス片手に街を散策するのも乙なもので（当日は雨でしたが）。

◆ かみのやまワイン特区

会場となった山形県上山市。昔は温泉（東山温泉、湯野浜温泉とならぶ東北三楽郷の一つ）や競馬場（上山競馬場）で有名でしたが、山形新幹線の開通と相反して、由緒ある旅館の相次ぐ廃業や競馬場の廃止に加えて、最近では少子高齢化や人口減少も著しい典型的な地方都市の一つとなっています。それを打開すべくワインを起爆剤に地域活性化をめざす上山市では、良質なブドウがとれ、大手ワインメーカーに原料を供給するほどのブドウ産地ですが、以前は2つのワイナリーしかなく原料供給地にとどまっていた（そのうちのひとつ、かつては「蔵王スター」の銘柄で有名だったタケダワイナリーのワインは、2008年の洞爺湖サミット、2016年に山口県長門市で開かれた日口首

脳会談の際に出されたことでも知られています）。そこで、企業、個人、社会福祉法人など新たな担い手が後継者難のブドウ栽培から手掛け、ワイン産地に脱皮しようと取り組み、「ワイン特区」の指定を受けるまでになりました。その後、ワイナリーも4つに増え、東北最大級のワインの祭典も定期的に開催しています。

◆ 東北最大級の「山形ワインバル」

乾杯！ 去る7月1日、上山市内をはじめ山形県内外から一同に会したワイナリーのワインを楽しむ東北最大級のワインイベント「山形ワインバル」が、上山城を中心に開催されました。約4千人が来場し、軒を並べた47団体のワイナリーや串焼き・生ハムなどの飲食店も堪能。浴衣にワイングラスを持つ姿も多く見られ、ワインの郷ならではの光景が広がりました。2014年の初開催から今年で10年目。全国にファンを増やしているかみのやまでは、ワイン文化が着実に根差しています。自分は山形県内のワイナリーを中心にさまざまなぶどうの種類の赤、白、ロゼ、オレンジのワインを十数杯、味わいました。

ワインで街づくりの上山（かみのやま）。ぜひ皆さまもおいしいワインを味わいに上山（かみのやま）の地にお越しください！（温泉もおススメです！）

（参考）山形ワインバル：<https://www.yamagatawinebal.jp/>



「山形ワインバル」の案内板



上山城をバックに



会場の一つ、入口近くの会場にて



たすきリレー

海外業務に想う（上）

(株)トーニチコンサルタント 大澤 伸男

1969年4月に当時の石田礼助国鉄総裁から辞令を頂き主に鉄道建設改良業務に就いた。その後15年程経過後は、国内業務と併行して今日まで約40年間海外鉄道技術協力業務に取り組んできた。

その間、大学時代から始めた剣道は、人生の友として赴任した各地の道場等で稽古を続けてきた（写真①）。

海外業務は1984年2月に**アルゼンチンロカ線電化・軌道等改良工事**の設計施工管理業務のため軌道・土木部門責任者として、首都ブエノスアイレスに当時小学校低学年の子供2人と妻と共に赴任したのが最初である。アルゼンチン国鉄のバルシー施設部長とは絶えず連携して業務を行い、懇意となり当時のアルフォンシン大統領等臨席のもと開業したのを見届け2年後に帰国した後も連絡を取り合った。

アルゼンチンは日本との時差が12時間、南半球にあるため季節が日本とは反対、かつ到着後3週間ホテル暮らしであったため、家族ともども慣れるまでに少し時間がかかった。赴任してまもなくアンデス山脈に近い北アルゼンチンに旅行した。そこでフォルクローレに出会い、家族はそのとりことなりブエノスアイレスに戻ってから、高名なアルゼンチンの演奏家にケーナ

（たて笛）、とチャランゴ（10弦の楽器）を習う等、文化的に大きい刺激を受けた。剣道は、現地に住む日系二世の人達が中心となり稽古を行っているとの情報が入り、私もこれに参加した。勤務終了後の夕方稽古で汗を流した。帰国する時に、稽古仲間の一人から現地では剣道具が高価で手に入れるのが容易でないと聞き、



写真① 大学構内にある武道場、七徳堂

現地の剣道が少しでもより活況を呈するようにとの願いを込めて、一式現地に置いてきた。帰国後は山陽新幹線、小倉～博多間の管理、運営を担当する部署に就いた。その後、国鉄清算事業団からJARTSに出向しベトナム国、**ハノイ～ホーチミン間南北縦貫鉄道修復改良計画策定**のため、ベトナム鉄道の協力を得て、特急列車の先頭に乗る等により延長1726kmの南北縦貫鉄道調査を実施し改良計画を策定した。

1997年3月に鉄道を退職後は、海外の鉄道建設プロジェクト等を通じて、相手国がより安全で便利なインフラを使用でき、かつ貧困対策にもなることを目指して、コンサルタントの海外事業部門を希望し、現在の会社に入社した。そして2008年12月に再びベトナムにて**ハノイ～ホーチミン間新幹線投資計画評価業務**を団長として実施する機会を得た。前回の調査時にベトナム鉄道、国際部長として協力頂いたグエン・バンさんはベトナム鉄道総裁になられていて、その立場から直接業務内容の説明を受けた。説明の趣旨は、「今回実施する調査結果をもとに、ベトナム新幹線計画をベトナム国会に諮るための計画書作成に利用する予定であり、1ヶ月余りという短期間で調査を完了させる必要がある。」とのことだった。旧知の間柄であり、工程面で厳しいと思われた事柄も全て調査団として受け入れた。現地コンサルと共に10名余りで鋭意努力した甲斐あって完了に漕ぎつけ、その成果をセミナーの場でベトナム鉄道に紹介し期待に応えることができた（写真②）。



写真② ベトナム鉄道幹部の方々とともに（中央グエン・バン総裁、左隣はRCIC社トウイ社長、右隣菅広姿は筆者）

（次回は、ジャカルタに滞在したときの体験と、私にとって海外業務の集大成となるインド国、デリーメトロ建設プロジェクトとの関わりについて述べる。）



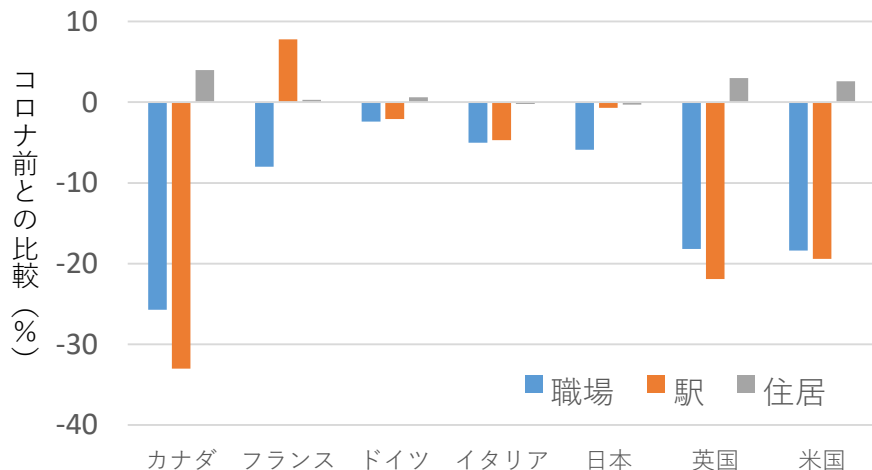
今月の国際比較データ



● 労働の現場に戻らないスマホ端末

今月のPF書店のコーナーでも紹介している「世界インフレの謎」。その本の中で、興味深い事実が紹介されていました。グラフはGoogle社が提供するスマートフォンの位置情報データを使って、主要国でスマホがどこにあるかを調べ、パンデミック以前と2022年5月とを比較した結果を示しています(表①)。米国では、「職場」にある端末の台数が18%減となっています。「駅」にある端末の台数も19%減少しています。米国以外でも、英国とカナダは職場の端末台数が顕著に減っていることがわかります。このデータはスマホ端末の位置を調べているだけのため、なぜスマホがそこにあるのかまではわかりません。しかし、米国は日本とは比較にならないくらいWFH(Work From Home)が普及しており、労働者が元のオフィスや工場などに戻っておらず、行動変容が確実に起こっています。そのような中で、テスラ社CEOは同社の社員に対してオフィスに復帰するよう命令したことが報じられましたが(彼のツイートには職場に即座に復帰しないとクビと書かれていましたが)、この一件は労働者の行動変容の根深さを物語っているように思われます。

表① スマホ端末の所在箇所



● 日本のFIFA女子ランキングの推移と過去の開催国・優勝国

サッカー女子のワールドカップ(W杯)が7月20日、オーストラリアとニュージーランドの共同開催で開幕します。2011年ドイツ大会で優勝した日本代表(なでしこジャパン)は今回、国際サッカー連盟(FIFA)ランキング11位で大会を迎えます。今回の第9回W杯は、32チームが出場。日本はまず1次リーグC組で、スペイン(6位)、コスタリカ(36位)、ザンビア(77位)と決勝トーナメント進出を競います。日本の初戦は7月22日、ニュージーランド・ハミルトンでのザンビア戦となります。なでしこジャパンの世界ランキング推移、現在の世界ランキング(表②)及び過去の大会の開催国、優勝国(表③)は下図の通りとなっています。本大会、なでしこジャパンの活躍に期待です!

表② なでしこジャパンの世界ランキング推移・上位ランキング



1位	米国
2位	ドイツ
3位	スウェーデン
4位	イングランド
5位	フランス
6位	スペイン
7位	カナダ
8位	ブラジル
9位	オランダ
10位	オーストラリア
11位	日本

表③ 過去の大会の開催国、優勝国

	開催国	優勝国
第1回(1991)	中国	米国
第2回(1995)	スウェーデン	ノルウェー
第3回(1999)	米国	米国
第4回(2003)	米国	ドイツ
第5回(2007)	中国	ドイツ
第6回(2011)	ドイツ	日本
第7回(2015)	カナダ	米国
第8回(2019)	フランス	米国



PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！



私のインフラ巡礼



① 世界インフレの謎 (渡辺 努 著 講談社現代新書)

世界的なインフレの真犯人はウクライナ戦争ではなく、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックであると、観察されたデータに基づいて分析。2年間の巣ごもりのあと、リモートワークに慣れた労働者は工場やオフィスに戻らず、働き手の減少によってモノやサービスの供給が減った。ステイホームに慣れた消費者も以前の消費の現場に戻らなかった一方で、一部の品目に需要が集中し、生産が追い付かなくなった。このような需給バランスの変化がインフレの一因と指摘。パンデミック前には戻ることができず、行動変容に適応し、変革の原動力にするべきだという著者の主張はおそらく正しいだろう。

② ゆるい職場 (古屋 星斗 著 中央公論新社)

以前、東京建設PMO (JR東日本) のセミナーにて講師をお願いしたリクルートワークス研究所の古屋星斗氏。その際のテーマが「現代の職場環境と若手の育成」であり、そのエッセンスが詰まった著書が今回紹介する「ゆるい職場」。現在の職場環境やそれに対する若手の意識が研究結果に基づいた考察で展開されており、著者曰く、「コミュニケーションを図ることは大事です。ただ、飲みに行ったとしても、若者の不安は解消されません」。今の日本の上司の方は、自分達が育ててきたやり方で部下を育てられないという難しさに直面しており、非常に考えさせられる一冊となっている。

③ ドイツの学校にはなぜ「部活」がないのか (高松 平蔵 著 晃洋書房)

本書ではドイツにおけるスポーツクラブの繁栄にとどまらず、社会全体に広がる「公共空間」、「連帯」と「助け合い」の意識、「タメ口」カルチャー、教育における「自己決定」の重視などが幅広く論じられている。余暇時間が確保されたうえで、楽しみながらデモクラシーを学び、移民など社会的弱者を包摂する社会運動としての意味も持つドイツのスポーツクラブ。日本の部活動とは大きく異なるため、我が国にすぐにドイツ流を導入することは厳しいが、スポーツを通じて人間的成長を期待する着眼点は少しは参考になりそうである。

「松川地熱発電所」 (岩手県八幡平市)



名峰岩手山の西北西、八幡平との間に位置する松川地熱発電所は1966年に発電を開始した、我が国初の商用地熱発電所です。もともとは地元自治体が温泉開発のために掘削したところ高熱の蒸気が噴出し、これを発電事業に利用したという経緯を持ち、当初は日本重化学工業が開発・運営を行いましたが、現在は東北電力系列の東北自然エネルギーが事業を承継しています。現在も出力23,500Kwの発電を行っており、2016年には半世紀にわたる安定した電力供給が評価されて、日本機械学会より「機械遺産」に認定されました。火山も多い我が国において、再生可能エネルギーとして地熱発電がもっと脚光を浴びても良いのではと思える施設です。

(J R東日本エネルギー開発 大口 豊さん)

編集後記

富士山の静岡県側が今月10日に山開きを迎え、富士宮、須走、御殿場の3ルートが山頂まで開通しました。山梨県側は1日に山開きしており、今年はコロナ禍も落ち着き、登山者の大幅増が見込まれています。「日本人なら一度は登りたい」ということで、軽装での登山が目立つとのことですが、安全対策をしっかり準備して登ってほしいものです。(A.I)

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157 メール：info@miraikoso.or.jp

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28